

会山行 No.2435

## 夏合宿：劔岳

- ◆日程 2023年8月11日(金)～14日(月)  
 ◆メンバー L：TY、SD(K)、ST(S)、OY、OT、OB、DT(A)  
 NO

持てる力を出し切りたいと思い夏合宿として劔岳のバリエーションを企画した。連日天候に恵まれアルペンムードの中、日頃の訓練の成果を十分に発揮出来たと思う。今後の山の可能性を広げていきたい。

(記：TY)

8月11日(金) 天候：快晴

- ◆ルート：室堂～劔沢キャンプ場  
 ◆メンバー L：TY、SD(K)、OY、OT、DT(A)、OB、ST(S)、NO

竹橋発の夜行バスに乗り室堂に着いたのは7時過ぎだった。室堂ターミナルは登山者でごった返していてその中で朝食を食べたりパッキングをして出発の準備を進めた。階段を上がり外に出ると真っ青な青空で登山日和だった。雷鳥沢はすでに多くのテントがあり親子連れでキャンプに来ている人たちが賑わっている。雷鳥坂の急登を避け新室堂乗越を經由する緩やか展望コースで行くと、左手に奥大日岳がドーンと現れた。劔御前小屋まで上がると今回の主役、劔岳の雄姿が眼前に広がっていた。カッコいい!!単純に姿形がカッコ良く私の憧れの山である。自宅



の玄関に額に入った劔の写真飾っている程好きな山なのである。劔沢キャンプ場に到着すると既に結構な数のテントが張ってあったが好立地な場所にテントを張ることができた。テントの脇で入山祝い?を早々に始める。先日OBさんが百名山登頂を達成したのでサプライズでDTさんがスイカをプレゼントした。かなり大きなスイカを担いで来てくれたDTさん、ありがとうございました。とても美味しかったです。OBさんは勿論、みんなにとっても嬉しいサプライズで

あった。

(記：SD)

CT：室堂 8:00 - 雷鳥沢 9:00 - 新室堂乗越 9:50 - 劔御前小屋 11:50 - 劔沢キャンプ場 12:50

8月12日(土) 天候：快晴

◆ルート：源次郎尾根～劔岳

◆メンバー L:TY、SD(K)、OY、OT、DT(A)、OB

長時間行動かつ渋滞が想定されたため、朝3時に出発した。同タイミングで数パーティー出発していたようで、真砂沢方面のルートには前後にヘッテンの明かりが見える。例年源次郎尾根へは雪渓を歩いて向かうが、今年は融雪が早いとのことで雪渓トラバースギリギリまで夏道を使う。雪渓は距離も短く踏み歩かれているため用意していたチェーンスパイクは不要だった。



雪渓を渡り終えたらハーネス等装備を準備していざ登攀開始。本ルートは第1峰・第2峰を超えて山頂へ向かうコース。第1峰の前半は樹林帯で木をくぐったりまたいだりしながら沢登のツメのような雰囲気である。途中2箇所ほど登攀箇所がありスリングを使って足を進める。第1峰の後半に入ると花崗岩がむき出しになり絶景の稜線登りが始まる。勾配はきつくないものの、バリエーションに慣れてない自分は緊張感も相まってかすぐに息が上がり、時折足を止めて息を整える。第1峰に到着した時には絶景と安心感とで目が潤んだ。

その後難所はなく第2峰へ到着。第2峰の先の30m懸垂下降で数パーティーが順番待ち状態。1時間ばかり待ち時間があつたため絶景スポットでもぐもぐタイム休憩をとる。久しぶりの懸垂下降でセットにもたついたが、順調に全員懸垂下降を終了し、その後のザレザレのルートを登りきると10時ジャストに山頂へ到着。渋滞も少

なかったため、想定していたよりずいぶん早く登頂することができた。下山時はカニの横ばい渋滞にはまったものの、順調なタイムで下山し13時過ぎに劔山荘へ到着。先に下山を済ませ打ち上げ中であつたSTさん・NOさんとタイミングよく合流し、生ビールで登頂祝いの乾杯。その後幕営地に戻りSTさんのブテチゲ鍋に舌鼓を打った。

劔岳自体が初めてだった自分にとって、源次郎尾根チームに参加することはかなりの挑戦だったが、今シーズン積み上げた長時間耐久山行や登攀系山行の経験が大いに役に立ったと感じた。山岳会でもなければ決して挑戦できなかった本ルートに参加させていただいたことが大変ありがたく、山岳会の魅力を改めて感じた。



(記：DT)

CT: 劔沢キャンプ場 3:00 - 平蔵谷出合 4:04 - 源次郎尾根1峰 7:01 - 源次郎尾根2峰 8:00 - 劔岳 10:00 - 前劔 12:14 - 劔山荘 13:25 - 劔沢キャンプ場 14:37



8月12日(土) 天候: 快晴

◆ルート: 別山尾根~劔岳

◆メンバー L: ST、NO



1:30 起床、源次郎尾根組と同じ3:00に出発。風も殆どなく夜空は快晴。尾根沿いには既にヘッドランプの灯りが誘導灯の様に連なっている。ゆっくり行きましょう、と自分に言い聞かせるように登り始める。一服劔、前劔、平蔵の頭、カニのたてばい、とひたすらハアハア、高度と息を上げながら山頂を目指す。山頂はなかなか近づかないが、振り返る度に、劔沢キャンプ場がどんどん小さくなり、登ってきた尾根の向こうに劔御前と別

山に囲まれたカールが本当に美しく見える。登り切って、絶対に生きてあそこに戻ろうと真面目に思った。山頂では沢山の人達が写真撮影で列をなしていた。私とSTさんもそれぞれパンチャリ。さあ下りこそ大事ですよ、とまたまた自分に言い聞かし、カニのよこばいでは安全の為に昨晚OTさんに教えて貰った簡易ハーネスとセルフビレイを活用した。ゆっくり慎重に下りながら良くこんなところ登ったな、と自分に感心。無事下山できた事を言い訳に、劔沢小屋まで我慢できず、手前の劔山荘でビールをゴクリ。程なく源次郎尾根組も合流した。



(記: NO)

CT: 劔沢キャンプ場 3:00 - 一服劔 4:30 - 前劔 5:45 - 本峰-7:30/8:00 - 劔山荘  
12:00

8月13日(日) 天候：晴のち曇り

◆ルート：劔岳本峰南壁 A2

◆メンバー：TY、OT

源次郎尾根登頂の感動冷めやらぬ中の本峰南壁 A2 フェースへの登攀。疲労具合と台風が近づく中の天候が気になる。常駐の警備隊は 8/12 同様と予想するがヤマテンの予報は午後に雷雨の恐れ。SD さんは臨機応変こそが大切という。議論の末、TYL と二人で早出登頂を目指すことにした。4 時出発、前夜から腹具合が不安だったが、明るくなってから体も温まり、カニのタテバイ直下にある平蔵のコルに着くころにはいつもの調子に。ここから A2 フェースへの取り付け点へ降りる。先行パーティーが 2 組あり、その上に更に 1 組。初見なので、先行があると不安が少ない。後続は 4 人の 1 組のみ。準備をしていると程なく順番が来た。P1 を TY さんリードで難なくクリア。P2 リードの自分は終了点近くのハング気味の核心部でヌンチャクを掴んで (A0) クリア。P3~4 はリッジ右側の緩斜面をトラバース気味に進む。P5 は終了点直下のハングが核心でリードの TY さんが苦戦、右に巻いてクリア。自分がフォローで登る直前に終点直下の右壁側のハーケンが抜け、正面突破を余儀なくされる。A0 で半身上がって左手をクラック、右手をカンテに回して核心部をクリア。半身上げたところにハーケンがあったので、次回は正面から行けそう。P6 は緩斜面とブッシュをほぼロープいっぱいに進んだピナクルで終了点とした。詰めはガレ場を進み祠の左脇に出て登頂。山頂には霧が掛かり、人も少なめ。山頂の霧以外は終始好天に恵まれ絶景のなか登攀できた。悪化の前にと急いで下山。TY さん、OB さんの 3 人で無事を祝った。結局雷雨は来ず、夜半まで小雨が降っただけであった。最終日の 8/14 は自分だけ二人よりも遅いバスを予約したので、一人 4 時に出発して奥大日岳に足を延ばし、雲海の中の好展望を楽しんだ。目標の 7 時に登頂できたので、二人が先に向かっている「みくりが池温泉」へ急ぎ、合流。皆でサッパリして合宿を締めくくった。(記：OT)



CT：劔沢 4:00 - 前劔 6:00 - 平蔵のコル 7:00 - 本峰南壁 A2 取付点 7:10 - P6 終了点 11:50 - 山頂 12:00/12:25-劔沢 15:30



8月13日(日) 天候：晴れのち曇り 夜間雨

◆ルート：劔沢～大日岳

◆メンバー L:OB

この日は本来劔岳の南壁のクライミングの予定であった。しかし前日のヤマテン予報では午後から雷雨の予報、雷が鳴りだすまでのスピード勝負の山行となりそうだった。源次郎尾根の疲れが翌日きちんと抜けているのか、天気が怪しくなってきたときに焦ってミスをしないうか、時間がかかってしまいクライミング中に雷が鳴ってきたらどうしよう…等々の不安がぬぐい切れず、合宿3日目は予定を変更して大日岳コースへ行かせていただくこととした。

当日は朝は満点の星空、御前小屋で丁度日の出のタイミングとなり、昨日頑張って登った劔岳越しの美しい朝焼けを堪能しスタートを切った。

歩き出してみると思いのほか調子が良く、奥大日への上りも快調に歩くことができた。標高をあげると段々と弥陀ヶ原が視界に広がる。奥大日の山頂からは、大日岳と赤い屋根の大日小屋、そこに繋がる美しい稜線の道も見え、今日は奥大日まででゆっくりしておこうか…と思っていたが、歩きたい気持ちになってきた。時間を計算すると、ここまでのペースでいけば劔御前小屋に昼には戻ってくることができそうだ。それであれば雷雨も心配ないだろうと思い、大日岳まで足を延ばすことにした。大日岳までの道は片側の切れ落ちたトラバースや、ザレた急な箇所もあり慎重に歩かされるパートも多かったが、人も少なく気持ちの良い稜線歩きが楽しめた。大日岳からは遠くに劔・立山が一望出来た。



帰路も心配していた天気の流れもなく、順調に劔沢のテントまで帰宅、昼寝をしながら TYさん・OTさんの帰りを待つこととした。

(記：OB)

CT：劔沢テント場 4:00 - 劔御前小屋 4:45/6:00 - 奥大日岳 7:35/7:55 - 大日岳  
9:00/9:15-奥大日岳 10:30/10:45 - 劔御前小屋 12:30 - 劔沢テント場 13:30

8月14日(月) 天候：曇りのち晴れ

◆ルート：劔沢～室堂

◆メンバー L:TY、OB、(OT)

合宿最終日、ボロボロの体で起きるのが辛かった。そんな中、OTさんは奥大日岳に寄って帰ると言って朝4時に元気にテントを出て行った。眠い。5時まで二度寝するとようやくスッキリしてきた。テントはだいぶ少なくなっていた。源次郎に南壁。良い経験をさせて貰った劔岳とお別れ。充実感と共にトボトボと雷鳥坂を下った。何かをやり切った気がした。そして新しい世界が開けた気がした。みくりが池温泉でOTさんと合流し汗を流して室堂より帰途についた。

(記：TY)

CT：劔沢テント場 6:00 - 雷鳥沢ヒュッテ 8:20 - 室堂 10:00

■ 気象状況

3日間の天気図と予報を下表に示す。

日付	天気図※1	予報※2
8月11日		<p>太平洋高気圧に覆われて朝から晴れる見込み。風も明け方まで、白馬岳など強まる可能性があるが、日中は白馬岳も含めて弱まる見込み。日中は梅池や八方池など、後立山連峰信州（長野県）側の中腹から雲が湧き立っていき、午後は稜線でも一時的に霧に覆われる時間も。ただし、積乱雲が発達する（雷雨の）可能性は低い。</p>
8月12日		<p>太平洋高気圧に覆われて、引き続き、稜線では晴れて風も弱い。湿った空気が入ってくるため、昼前から稜線や後立山連峰の信州（長野県）側、立山連峰の西面では雲に覆われていく見込みだが、積乱雲が発達する可能性は今のところ低い。</p>
8月13日		<p>昨日の予想より上層に寒気を伴った低気圧は北側を進むため、稜線では朝から晴れる可能性が高い。昼前からは雲が広がっていき、午後は積乱雲が発達して立山連峰や裏銀座、雲ノ平方面を中心に、雷雨となる恐れ。また、八方池、梅池、地藏平など信州（白馬バレー）側の中腹以下では、朝から霧に覆われる時間が多くなる見込み。 警戒事項：落雷（午後）、沢の増水（午後）</p>

※1 出典：国土交通省気象庁 (<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>)

※2 出典：山の天気予報（前日16時の予報）

台風の影響が心配されたが、太平洋高気圧の勢力が強く、台風7号はゆっくりと北西に進路を取り、北アルプスへの影響は少なくなった。結果、合宿中の3日間は天気の崩はなく、快晴のもと快適な登山が行えた。

(記：0Y)

## ■食事考察

～共同食メニュー～

## 1日目 夜：ローストビーフ丼

ローストビーフ 800g、冷凍ブロッコリー1袋、ローストビーフのたれ1袋、  
アルファ米 5袋

## 2日目 朝：マルちゃん正麺

マルちゃん正麺旨塩味×6、いちど食べたらもうたま卵（5個入り）×2  
野菜たっぷりみそ汁の具 適量

## 2日目 夜：プテチゲ 2.0

サリ麺 6袋、野菜たっぷりみそ汁の具 1袋、魚肉ソーセージ 5本、  
ランチョンミート 1缶、高野豆腐 80g、乾燥しいたけ適量

## 3日目 朝：お好みスパイスでいただくおなかに優しい塩レモン海老そーめん

そうめん 7束、干しエビ 100g、乾燥ワケギ、ブラックペッパー、  
コリアンダーパウダー、レモン汁 各少々

## 3日目 夜：ジャンバラヤ

アルファ米：2袋、乾燥玉ねぎ：28g、味付き大豆ミート：15g、  
ケイジャンスパイス：5g、厚切りサラミ：86g、ジャンバラヤの素（2人用）  
：2袋、味付卵：5個

## 4日目 朝：スープパスタ

早ゆでペンネ 1袋（150g）  
粉末カップスープ（クラムチャウダー/コーンポタージュ）4袋  
（お好みで1人1袋～1.5袋）

～食事考察～

1日目夜に肉を食べれた、ローストビーフは事前調理済で  
現地での手間が掛からないのに豪華な食事を摂ることがで  
きた。2日目プテチゲは保存が効く食材で調理することを  
心がけた。

3日目朝はソーメンからの塩味のみで、お好み調味料でレ  
パートリーが広がることを予感させてくれた。

(記：ST)

